

# 郷土研通信



発行：てしかが郷土研究会 北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10  
発行者：松橋 秀和

フクジュソウ

## 第7回例会の様子

二〇二四年二月二十八日（水）、ふるさと歴史館でおこなわれました。

日中の雪まじりの藻琴山降ろしの強風が夕方から若干おさまりかけてきたので、なんとか開催することができました。

出席者は、斎藤敬子・松橋秀和・小林俊夫・安藤心・荻野峻宏・川上掠輔・浦田かほ（敬称省略）

### 会員から情報提供

#### ①青木待合所の駅弁包装紙のポストカード

去る一月二八日に釧路市博物館で開催された「道東と北海道・樺太の駅弁掛け紙」の講演会で作成されたポストカードを「弟子屈の皆さんでご活用ください」と頂いたものです。（松橋）



②ポストカードに併せて、二〇〇六（平成一八年八月号の「広報てしかが」に掲載した）駅弁の包装紙（別紙）を併せてお読みいただければ。（松橋）

#### ③『阿寒国立公園の三恩人』が復刻される

今から五〇年ほど前に種市佐改さん（元釧路観光連盟事務局長・元弟子屈図書館長）が「阿寒国立公園指定40周年」記念で執筆した『阿寒国立公園の三恩人』が三月中旬に復刻されます。

それまで無名に近かった阿寒地方が昭和九年に国立公園に指定されるには、田村剛、永山在兼、近藤直人の三人の先見の明と実現に向けての苦闘がありました。阿寒摩周国立公園が指定一〇〇周年に向かつて行くために改めて国立公園としていかにあるべきかを考える原点になるものです。釧路、弟子屈町内の書店で販売を予定しています。

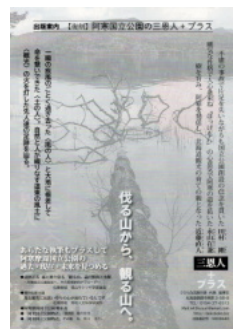
### 演題

「松浦武四郎さんの屈斜路コタン滞在記  
ー現代の武四郎さんとイソリツカラの心友物語を添えて」その1

講師ー斎藤敬子さん

内容ー講師の斎藤さんが「現代の武四郎さん」と呼んでいる松阪市在住の高瀬英雄松浦武四郎松浦武四郎記念館名誉館長との出会いと交流を通して、松浦武四郎

## 勉強会



が屈斜路コタンで過ごした前段の時代考証などを話されました。

が、当会の勉強会の恒例



となった、講師が話されたの中で疑問や質問、知り得た情報提供が会員から飛び出し、高瀬さんの松浦武四郎を訪ねる旅の途中で、惜しくも時間がきてしまいました。

高瀬英雄松浦武四郎松浦

武四郎記念館名誉館長が齋藤さんに語った「歩」の漢字を分解すると「止」と「少」になる。歩くとは、止まって少し考えてから記録して、また歩く」ことだと。

何か事を行うには、じっくり最良の方法を考えて事をすすめる短期型、あるいは目標を定めてすすめるながら状況を判断しながら最良の方法を考える長期型がある。

郷土研は、「この町の歴史と文化を後世にまちがいにく伝え遺す」長期型です。さて、続きは次回の勉強会へ。

# 次回の例会

第8回の例会は、

二〇二四年三月二〇日（水）

祝日、春分の日

一九・〇〇から

場所は、ふるさと歴史館

## 勉強会

演題

「松浦武四郎さんの

屈斜路コタン滞在記

ー現代の武四郎さんとイン

リッカラの心友物語を添えて」その2

講師 齋藤敬子さん



配布資料①青木待合所(弟子屈駅)の駅弁掛け紙  
釧路市立博物館・同友の会提供

むかしむか史（190）

てしかが歴史写真館<sup>64</sup>

駅弁の包装紙

釧網線は大正11年に釧路側と網走側の両方向から着工し、昭和6年9月20日に全線開通しました。昭和4年に釧路から弟子屈まで開通したときは、昭栄尋常小学校の児童たちが旗行列でお祝いをしています。また、この列車に乗って昭和6年に静岡県から仁多の高台を開拓する移民の人たちが弟子屈の駅に着きました。

蒸気機関車の頻繁な水補給や、単線のため対抗列車の通過待ちなどで停車時間があり、鈍行列車で弟子屈から釧路まで2時間と少し、網走までは3時間弱のちよとした旅でした。

昭和21年5月25日に青木高会は弟子屈(現摩周)駅構内での物品販売の営業免許を取得します。戦後の食糧事情が少しずつ良くなってきたころ、弟子屈駅構内では青木高会の作った暮の内弁当、醤油味のしいたけ弁当の「駅弁」が売られていました。下り2番線釧路行きのホームには立ち喰い蕎麦もあって、網走行き1番線の乗客は跨線橋を駆け足で渡り蕎麦を食べ、蕎麦ダレのいい香と供に汽車の旅を楽しんでいました。

昭和43年ころから、蒸気機関車はディーゼル機関車に替わって停車時間も短くなり、年々列車を利用する観光客も少なくなってきて、弟子屈駅構内の「べんとうエイ〜べんとう〜！」の売り声と肩から提げた売り台姿はなくなりました。あのまったりとした旅をする時間と醤油味のしいたけ弁当の味が懐かしい。

(写真:種市佐改コレクションから)

てしかが郷土研究会(松橋)

【復刻】阿寒国立公園の三恩人+プラス

# 日本の国立公園元年 / 阿寒摩周国立公園 指定 90 周年記念

1934 ..... 2024

復刻

# 阿寒国立公園の三恩人

# +プラス

出・版・案・内

我が国に国立公園制度が創設され、その指定初年度（昭和9年）に候補地12箇所のひとつとして阿寒摩周国立公園（当初は阿寒国立公園）が指定された。その実現に寄与した三人の偉人に光をあて、当時無名であった阿寒が指定を得る過程を記した名著『阿寒国立公園の三恩人』（種市佐改著）を復刻。新たに郷土史家たちの執筆を加え、道東観光の過去・現在・未来を見つめる待望の書。

2024年  
3月発刊!

定価 本体 1500円 + 税  
市内各書店・全道主要書店  
当舎ホームページよりネット販売


Taneichi Sakai  
種市 佐改 著

編著  
佐藤宥紹 城山モシリヤ学調査会  
松橋秀和 秀和人文科学研究所  
塩 博文 クスリ凸凹旅行舎

# 国立公園誕生秘話

無名だった阿寒はなぜ日本初の  
国立公園指定に含まれたのか?!  
その誕生に情熱を燃やした恩人たちの  
足跡をたどる...

A5判  
表紙カラー  
本文モノクロ  
(一部カラー)  
360頁

【発行】 クスリ  旅行舎  
DEKOBOKO

# 出版案内 【復刻】阿寒国立公園の三恩人+プラス

不慮の事故で片足を失いながらも国立公園創設の信念を貫いた田村剛  
 剛気な性格で人心を束ね「ぼっけもん」の心意気で阿寒の道を拓いた永山在兼  
 樹を育み、阿寒を発信し、北海道観光の育ての親となった近藤直人

## 三恩人 + プラス

クスリ凸凹旅行舎 代表 塩博文  
 北海道釧路市美原 3-58-8  
 TEL：0154-37-6513  
 Mail:n43kusuri@gmail.com  
 http://dekoboko.biz  
 出版者記号：9909440

# 伐る山から、 観る山へ。

一瞬の疾風のごとく過ぎ去った〈風の人〉と大地に根差して  
 命を繋いできた〈土の人〉。自然と人が織りなす道東の風土に  
 〈観光〉の火を灯した先人達の足跡を辿る。

あらたな執筆もプラスして  
 阿寒摩周国立公園の  
 過去・現在・未来を見つめる

- ◆前田正名 森に神々宿る「観る山」論の脈絡と水脈  
 ～阿寒国立公園指定へ、その思想史的アプローチ～  
 佐藤有紹 城山モシリヤ学調査会
- ◆種市佐改 小論  
 旅と観光には思いやりの心が流れているんです  
 松橋秀和 秀和人文科学研究所
- ◆阿寒摩周国立公園 略年表
- ◆「阿寒国立公園物語」（復刻）種市佐改
- ◆「阿寒国立公園物語」その後 塩 博文 ほか。